

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (こども学科)

○令和6年度の前期、後期、通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。
(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIO との整合性、カリキュラムの問題点等)

【成果・できていること】

- ・各科目の検証結果は、概ね良好である。
- ・多くの科目で内容の適切性や開講時期が肯定的に評価されており、教育課程は概ね適切であるといえる。
- ・全体として、開講時期などに大きな問題はなく、適切な課程となっている。
- ・それぞれの科目において、発表、模擬保育など、主体的な学びが積極的に取り入れられている。
- ・保育及び教育実習に関する授業では、事務手続きや書類を見直したり、指導内容を統一させたりすることで、教員及び学生の実習間での共通理解を促すことができた。
- ・教育に関する基礎的理論を取り扱い、初年次前期開講が一般的な「教育原理」が、本学では後期開講となっている。同時に、教育の方法論などを扱う「教育の方法と技術」が前期開講となっている。学習の系統としては、この順序は逆であることが望ましいため、令和7年度より、「教育原理」を前期開講、「教育の方法と技術」を後期開講に変更することとした。

【課題・できていないこと】

- ・教育実習と保育実習の内容等の調整がもう少し進められるとよい。

【その他・今後の検討事項等】

- ・「保育・教職実践演習」は、「教職課程コアカリキュラム」や「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」を参考に、授業内容をあらためて検討してもよい。